

市内各地

早期検診など子宮頸がん予防を訴えた
街頭キャンペーン―中央区三宮町1

「子宮頸がん防ごう」

検診呼び掛けチラシ配布



タ―街と市営地下鉄西神中央駅前、名谷駅前であり、若い女性らに市指定の検診医療機関を案内するチラシなどを配った。

子宮頸がんは、性交渉でのウイルス感染が原因で発症する女性特有の病気。早期に発見、治療すれば子宮は守られるが、10年前に比べ、20～30歳代の患者が増えているという。キャンペーンに参加した真細胞検査士会の小川隆文会長(58)は「自分に関係ないと思わず、検診を受けてほしい」と呼び掛けている。

10日には、須磨区の市立北須磨文化センターで、がんで子宮全摘出手

術を受けた女優三原じゅん子さんが「女性の力で日本を変えよう―失くした私に出来る事」と題して講演する。入場無料。
実行委事務局 ☎078・271・0255

(若林幹夫)

子宮頸がん予防の全国キャンペーン「『子宮の日』LOVE49」(3～10日)に合わせ、NPO法人「子宮頸がんを考える市民の会」や市でつく

る実行委員会が3日、市内各地で早期検診の大切さを訴えた。

同法人は4月9日を「子宮の日」としている。キャンペーンは三宮セン

平成22年4月4日(日) 神戸新聞